

授業科目一覧

4. リレー講義科目

リレー講義「多文化に生きる人々ー周縁と境界」
リレーセミナー

テーマ別リレー講義

「多文化に生きる人々—周縁と境界」

全学科 1、2年次 選択 後期 2単位 水曜日5限

コーディネーター 今井 敦、虹林 慶

1. 概要

・授業の背景

「日本人」とか「ドイツ人」と何気なく口にするとき、ある国（ひとつの行政的な区分）の中に住んでいる人々が均質な容姿や考え方、文化を共有していると前提していないだろうか。確かに、一つの国に住む人々の大部分が持つ共通の特徴をあげることはできるかもしれない。では、共通の枠にあてはまらない人々、つまり「周縁」にいる人々については、普段どれだけ考えているだろうか。また「周縁」の外側には「境界」がある場合がある。例えば国境があるように、周縁の向こう側は、異なる世界、隣接する異文化であり、人々は実は二つの異なる世界に行き来し、双方を理解しながら生きているのかも知れない。

・授業の目的

この授業では、イギリス、ドイツ、オーストリア、アメリカ、アフリカ、日本などをとりあげ、それぞれの周縁と境界について考えることで、多文化の共生という問題について理解することを目的とする。

・授業の位置づけ

多文化、あるいは周縁や境界に焦点をあてながら、様々な分野で活躍する研究者の講義を通して、幅広く考える。私たちが生きている世界が過去から現代に至るまで多様な人々によって構成されていることを知り、自分がその世界の中の一人であることを確認する。

2. キーワード

「多文化」「共生」「周縁」「境界」「ナショナリズム」

3. 到達目標

多文化が交錯する現代社会についての認識を深め、文化や社会についてのステレオタイプな見方から脱却する。

4. 授業計画

- ① (10月1日) ガイダンス
今井敦・虹林慶
- ② (10月8日) 歴史学における周縁と境界—国家・地域・人びと—
水井万里子 (本学准教授)
- ③ (10月15日) アイルランドとケルト文化—西の果てに生きる人々—
木原謙一 (北九州市立大学教授)
- ④ (10月22日) バリアフリーと交通工学
寺町賢一 (本学准教授)
- ⑤ (10月29日) 「周縁」世界としてのアフリカの現在
遠藤貢 (東京大学教授)
- ⑥ (11月5日) 近世「周縁」、「境界」都市としての長崎
八百啓介 (北九州市立大学教授)
- ⑦ (11月12日) 社会学における周縁
稲月正 (北九州市立大学教授)
- ⑧ (11月19日) 近代オーストリアの非嫡出自子
江口布由子 (本学非常勤講師)
- ⑨ (12月3日) ジェンダー問題とアメリカ
秋好礼子 (福岡大学准教授)
- ⑩ (12月10日) A challenge for European language policy:
Many countries - even more languages
Barbara Johanna Klema (九州大学非常勤講師)
- ⑪ (12月17日) 言語・文学・ナショナリズム—南チロルの場合—
今井敦 (本学准教授)
- ⑫ (1月7日) 「コズモポリタンシティ・ロンドン」
中川順子 (熊本大学准教授)
- ⑬ (1月21日) 地域における中心と周縁—都市間格差について
李友炯 (本学准教授)
- ⑭ (1月28日) まとめ
虹林慶

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。講義の中から任意に選んだ最低7本のレポートを提出（7本以上の場合、点数の高いものから7本を選択可能）。平均点が60%に達していることが当講義の合格条件となる。レポートの課題と分量、締め切り日時については各講義中に指示があるが、原則として講義終了後2週間で提出することとする。

6. 履修上の注意

最初のガイダンスで注意点を述べる。「テーマ別リレー講義」をすでに履修したものは履修できないので注意すること。

7. 参考文献

各講義で指示する。

8. オフィス・アワー

- ・今井 敦 (コーディネーター) 連絡先: imai@dhs.kyutech.ac.jp (884-3448)
(火曜日午後2時から5時 総合教育棟3F、313)
- ・虹林 慶 (コーディネーター) 連絡先: niji@dhs.kyutech.ac.jp (884-3444)
(月、14:30-16:00、総合教育棟4F、412)

リレーセミナー

全学科 2, 3, 4年次 後期 選択 2単位

担当教員：人間科学系教員

1) 概要

人間科学の特徴的科目である「リレー講義」と補完的に機能する科目である。一般教養の中でも工学部の学生にとって特に重要かつ緊急性を持つと思われるテーマについて、具体的にディスカッションや表現方法などを通して、問題解決能力を涵養する。リレー形式とすることで、複数の教員が複眼的アプローチを提供する。学生が主体となり、実践的に取り組んでいけるよう、個別指導を重視した授業である。

2) キーワード

環境、倫理、多文化

3) 到達目標

一つのテーマについて多様な角度から考えることにより、問題解決能力、批判的思考力を養う。また、セミナー制とすることで、レポートやディスカッションを課し、表現能力を高める。これにより、社会人として必要な基礎能力を身につけるきっかけを提供し、さらに人文社会の問題について、広く興味を喚起することを目標とする。

4) 授業計画

- 1) イントロダクション
- 2) ~5) 第一セット
- 6) ~9) 第二セット
- 10) ~13) 第三セット
- 14) まとめ

* 授業計画ならびに各セットの具体的内容については、当該年度の前期に人間科学ホームページならびに学務掲示板にて周知する。

5) 評価方法・基準

授業内のディスカッション（プレゼンテーションなども含む場合がある）、資料調査、3回のレポートを総合して行う。60点以上を合格とする。最終的成績評価はコーディネーターが行う。

6) 履修上の注意事項

セミナー形式のため、第一回目に配布する資料を授業計画に沿って予習することが必須である。また、講義の形式上、人数制限をかける。授業内容は毎年変わるため、人間科学ホームページで履修前に授業内容を確認することが望ましい。

7) 教科書・参考書

第一回目に配布する。また参考書は適宜授業中に紹介する。

8) オフィスアワー等

相談窓口はコーディネーターとなる。オフィスアワーの詳細は第一回目に知らせる。